

# 新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPPO

2

February 2020  
No.804



「高齢者学級「聖山大学」初釜体験」（聖籠町）  
「聖山大学」の皆さんで、作法等を学び、お抹茶もおいしくいただきました。

## 4~5 特集 特集座談会「これからの公民館活動について」

CONTENTS	2	トピックス	「公民館月報第2回編集委員会開催」
	3	視点 ひろば 掲示板	「学びや支援のつながりを」 新潟市教育委員会地域教育推進課 副参事 石川 潤 「人の心の真心について 私の一人ごと」 出雲崎町社会教育委員 中野 勝正 「関東甲信越静公民館連絡協議会第3回理事会開催」
	6	実践記録シリーズ	こども交流体験事業 「わくわく桜体験隊」～実りある体験を目指して～ 新発田市加治川地区公民館
	7	サークル交流 素顔拝見	「歌が好き」(十日町市)／「いつまでも元気でいたい!『元気サークル』続いています!」(阿賀野市) 光井 聡史さん(刈羽村)／酒井 和裕さん(燕市)
	8	お元気ですか information	「サークル活動で切磋琢磨?して」 上越市・武田 一郎さん 公民館月報が変わります

TOPICS

公民館月報第2回編集委員会開催



令和2年1月20日(月)に新潟市中央公民館303講座室において公民館月報第2回編集委員会を開催しました。

〈編集委員〉

編集長 広瀬 松司(事務局長)  
委員 五十嵐和彦(県推進セ)

北 菜奈実(上越市)

渡邊 善則(小千谷市)

岩崎 裕一(湯沢町)

板垣 敏幸(村上市)

代理参加 山田 浩介

竹内 範子(新潟市)

小出 守仁(新潟市)

編集委員会当日は、公務のため1人が欠席でしたが、令和2年度の執筆計画、特集、紙面構成について意見交換が行われました。

○編集全体について

(確認事項、質問、意見)

・令和2年度は、「公民館月報」から「公民館だより」となり、毎月発行から2カ月に1回の発行にする。4月(806号)・6月(807号)・8月(808号)・10月(809号)・12月(810号)・2月(811号)

・毎回発行日は、4月・6月・

8月・10月・2月の25日に変更する。(元年度までは15日)

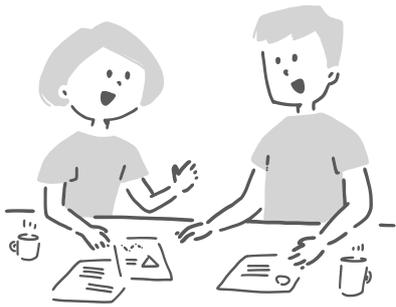
・市町村執筆担当を参加者で確認した。

・特集については、テーマと担

当者を確認した。

・「公民館だより」をデータ配信にする方向を検討する必要があり、意見が出され、意見交換した。結果、令和2年度は紙ベース6回の発行をして、3年度からデータ配信するよう準備をすることで決定した。第2回評議員会で提案することにしました。

・ラフネット公民館も積極的に活用するようにと要望が出された。



公民館だより原稿執筆割当一覧

令和2年4月～令和3年2月

月号	表紙	ひろば	サークル交流	素顔拝見	お元気ですか	実践		
R2年 4月	小千谷市	加茂市	関川村	津南町	弥彦村	湯沢町	阿賀町	南魚沼市
6月	刈羽村	佐渡市	五泉市	新発田市	聖籠町	出雲崎町	胎内市	上越市
8月	阿賀町	阿賀野市	糸魚川市	妙高市	新潟市	加茂市	魚沼市	燕市
10月	十日町市	見附市	胎内市	田上町	南魚沼市	津南町	新発田市	三条市
12月	妙高市	聖籠町	上越市	佐渡市	五泉市	阿賀野市	村上市	柏崎市
R3年 2月	湯沢町	小千谷市	新潟市	燕市	魚沼市	十日町市	刈羽村	粟島浦村

「新潟県公民館だより」 毎回25日発行  
いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間960円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711



### 「人の心の 真心について 私の一人ごと」

出雲崎町社会教育委員  
中野 勝正



昨年の6月に当町の社会教育委員に任命されまして、第19回新潟県社会教育研究会佐渡大会が10月18日、佐渡島開発総合センターにて開催され、参加させていただき社会教育委員としての役割の大切さを勉強させていただきました。

私は、第一分科会の「行政と社会教育との協働による社会教育事業の進め方」に参加させていただき、公民館活動の充実強化と社会福祉の充実強化を更に進めるべきだとの思いを強く思いました。

公民館活動の歴史は、戦後いち早く国民の皆さんから地域づくりを推し進めて自分達の地域を良くしなければならぬという中でできて、70年以上経っています。

私は、古稀を今年迎え70歳を迎えて気持ちを新たに何事にもチャレンジしたいと思っている今日この頃ですが、私が若いと

きと今の時代との比較するのは条件がいろいろ違うと思うので一概には言えないと思いますが、50年前は公民館活動、今より元気で活気があったように感じます。

私が、20歳ごろのとき仲間づくりを推し進めたいというとき何かを身に付けている人ということ、よく公民館に行っている人なと意見交換をしたような気がします。

全部覚えていたわけではないですが公民館の職員の人というお話をしながら自分の夢を語った記憶があります。

その中で、公民館から推薦をいただいた、県の事業の中で四国の高知県に研修に行った思い出があります。研修先の家の家族の方が自分の子どものように接してくれ、人の真心が今でも脳裏にあります。

最近の公民館事業、多様化し過ぎていてよくに思えてなりません。そして少子高齢

化の中で地域づくりがだんだん薄れてきているように感じますし、公民館事業にたずさわる職員も少ないように感じます。多くの人が物足りなさを感じているように感じます。そこで、町内活動の充実強化を一層進めるべきと考えます。

それについて提案があります。

どの市町村にも社会福祉協議会があり、全国社会福祉協議会が設立したのが昭和30年ということ、60年以上の歴史があり、福祉事業に貢献して頂いています。

そこで、公民館活動の充実強化と社会福祉協議会の充実強化を計り二つが協力しながら進めていただきたいと思います。そして人と人との結びつきを強くした街づくりを取り組んでもらいたいと思います。

そんな私の一人ごとですが、関係者の方、考えて見て下さい。

# 視点



新潟市教育委員会地域教育推進課  
副参事 石川 潤

## 「学びや支援のつながりを」

昨年、ラグビーワールドカップが日本で開催され、日本チームが大健闘しました。私が特に印象的だったのは、スコットランド戦での稲垣啓太選手のトライの場面でした。それぞれのポジションの選手が、自分の仕事（責任）をまさに体を投げ出し全うし、トライに繋がった様子に心が震えました。また、そこからは、メンバー全員が、トライを取るため、勝利するために気持ちもプレイもつながっていないければならないことを教えてくれるような気がします。だからこそ、

大会を通じての日本チームの戦いの感動が「One Team」という言葉に凝縮されたと感じます。そして、それは、それぞれの点が線になった成果ではないかと思えます。

さて、現在私が主にかかわっている仕事は「若者支援事業」です。具体的には、15歳から39歳までのすべての若者が健やかに成長し、円滑に社会生活を営むことができるよう、特に困難な状況を有する若者への継続的な支援によって社会的自立や職業的自立を目指しています。また、当課では「地域と学校パートナーシップ事業」、「ふれあいスワール事業」、「街頭育成活動」、「成人式」、「学校開放」等、多くの年代

にかかわる事業を所管し、学校、行政機関、民間団体、NPO法人等、いろいろななかかわりの中で業務を行っています。

その中で感じることは、一人一人の人生の中では、10代、20代、30代...と年を経ても、経験したことや培ったことは消え去るものではない、ということ。それゆえ、得た学びや経験がどこかで活かされるのが大切だと思います。

「学校教育」、「社会教育」等と言葉は区別されますが、社会全体の中でそれぞれが点で終わるのではなく、つながれ、線となつて、一人一人の人生の糧となる社会を目指せればと思います。

## 掲示板 HOT NEWS

### 関東甲信越静公民館連絡協議会第3回理事会開催

- 日時 令和2年1月31日(金)  
会場 千葉県船橋市中央公民館
- (1) 令和元年度事業報告及び決算について
  - (2) 第41回全国公民館研究集会第59回関東甲信越静公民館研究大会  
栃木大会の決算について
  - (3) 第42回全国公民館研究集会第60回関東甲信越静公民館研究大会

- 千葉大会について
- ・大会開催日 令和2年11月19日(木)・20日(金)
- ・会場 船橋市民文化ホール及び  
船橋市中央公民館・周辺施設
- (4) 次年度役員(案)について
- (5) 関東甲信越静公民館研究大会開催予定について  
新潟県は、令和6年度開催予定になりました。

## 特集

## 特集座談会「これからの公民館活動について」

## ○座談会開催

テーマ「これからの公民館活動について」  
令和2年1月20日(月)に新潟市中央公民館で座談会を行いました。「これからの公民館について」をテーマに意見交換を行いました。

## ・座談会のメンバー

小出 守仁さん(新潟市新津地区公民館)

山田 浩介さん(村上市中央公民館)

北 菜奈美さん(上越市社会教育課)

司会 広瀬 松司(県公連事務局長)

記録 村木 綾子(県公連事務職員)

(広瀬) はじめに自己紹介をお願いします。

(小出) 新潟市新津地区公民館の小出守仁と申します。公



民館に勤務して3年目です。公民館の仕事は楽しいと感じています。最近公民館のあり方が取りざたされていて今後どうなっていくのか心配もしています。



(山田) 村上市中央公民館の山田浩介と申します。市役所に務めて3年目で、ずっと社会教育を担当しています。以前は企業に7年間勤務していました。平成29年に社会教育主事講習を受講しました。



(北) 上越市教育委員会社会教育課北菜奈美と申します。私は入庁後、現在の職場に配属となり、社会人として2年目を迎えています。1年目は社会教育課の

庶務を担当していましたが、今年度から公民館担当となりました。担当する3つの地区公民館の主任さんと連携しながらいろんな事業を行っています。1年目の平成30年度に社会教育主事講習を受講しました。

(広瀬) 最近公民館に関わる社会教育法の一部改正等です。まだまだ公民館の主管が教育委員会であったものが、首長部局に移すことが可能になったりして、公民館にとって大きな転換点になっていると思っています。

皆さんは2年間、3年間お勤めになって公民館活動の変化をどう受け止められていますか。

(北) 公民館と地域との結びつきが重要になってきていると感じています。上越市では平成24年から地域づくりを担う人づくりを推進しようという中で、「元気の出るふるさと講座」という公民館事業を行っています。上越市は28の地域自治区があって、28の地区公民館があります。それぞれの地域の実態から課題を捉え、その解決をはかっていくという講座です。このように上越市では社会教育で地域づくりをがんばろうと意識されていると感じています。

(山田) 村上市では、自治振興課でまちづくり協議会が発足しています。各地域で特色を生かした地域づ

くりを行っています。公民館からも連携を図りながら進めたいと思っています。

また、現在、公民館予算や人員数が減少しています。

従来どおりの公民館活動を展開することができない状況にあります。その中で何ができるかと考えたときに、

公民館で活動しているサークル活動を支えながら、事業にその人たちが携わってくれる体制をつくりたいと考えて動き出しているところです。

例えば、今までは小学生向けの体験活動のプログラムは公民館職員で準備していましたが、サークルの皆さんに体験メニューを企画・提案から当日の運営まですべてを行ってもらいました。公民館では、体験メニューの取りまとめと広報活動を行いました。この活動を通して各サークルと参加した小学生や親を巻き込んで公民館が活性化することを期待しています。

(小出) 私は公務員になって20年以上が経ちました。昔の公民館と今、自分が実際にやっていることを比べるとだいぶ変わったと思います。今は、ものすごく公民館が「地域寄り」になって、公民館から外に出て



地域の人と連携してやるようになってきたと感じています。昔は講座や市民大学など、趣味やカルチャークラブ的な要素が強かったように思います。

それが変わってきて民間でもカルチャースクールみたいなのが多くあるから同じことを公民館がやるのもどうかかかっています。新潟市も村上市と同じく地区ごと「コミュニティ協議会」があつて地域づくりを担っています。そこを担当しているのが首長部局の地域総務(区)によつては地域課課です。公民館は社会教育という形で「コミュニティ協議会」と関わっています。コミュニティセンターやコミュニティハウスという集まる場所がありながら、公民館もあるという現状の中で、これからどんな組織を含めて変化していく必要があるのではないのでしょうか。新潟市も財政が厳しい状況にありダブっている事業の見直しが求められているところです。

(広瀬) 地域寄りになっているという話がありました。が、どのようなことも少し教えてください。

(小出) 地域や学校に足を運ぶことが多くなりました。新潟市では各学校に地域教育コーディネーターが配置されています。コーディネーターと組んで文化祭に協力したり、学校を会場にして講座を開いて地域の方からも参加していただくなどの取組をしています。学社民の融合という形で講座を行う機会が増えていきます。今までですと公民館で募集をかけて公民館を会場に講座を企画運営していましたが、もつと積極的に学校や、コミュニティセンターなどに足を運んで、その周辺地域の人たちを対象とした講座を開設する機会が増えていきます。

(広瀬) 公民館の現状についてお話しいただきました。本日のテーマ「これからの公民館活動について」についてお話を聞きます。私は、公民館活動が活性化

するためには、研修がとても大切であると考えています。参加することによつて職員の資質向上やネットワークづくりが可能となります。皆さんいろいろな研修に参加していると思いますが、成果のあったことや感想があつたら教えてください。

(山田) 勤務当初は公民館が何をしているかわかりませんでした。いろいろな研修に参加させて学ばせていただいております。特に、昨年の全国公民館大会の様子をインターネット配信で視聴したことが印象に残っています。つどう・まなぶ・むすぶということを大事に、人が集まるところでどう繋げてやったらいいかを考えるようになり、各サークルの活動が続くように支援したいと思います。

また、研修の内容や他地区の取組を参考に「プログラムの見直し」ヒントを沢山いただいています。

(小出) 印象に残っている研修は、昨年参加した全国公民館セミナーです。東京大学の牧野先生の講演で、「公民館は最終的に地域に入つて、隙間がないような形の最終的な学びのセーフティーネットになるべきである。」という話が印象に残っています。どつしたら最後の受け皿として取り組めるか考えています。が、なかなかよいアイデアがなく、悩んでいます。

(広瀬) ありがとうございます。研修で学んだことを職場で生かすことが公民館活動の活性化につながると思います。では、最後に公民館活動の期待や夢についてお考えを聞かせてください。

(北) 今後の公民館のあり方については、社会教育を進めていくときに、指導者がいて学ぶ人がいるという構造も大事だと思いますが、住民の方々が主体となって活動を行う体制になっていくかと思っています。

(小出) 公民館の主管が教育委員会から首長部局に移管されるといふ話を聞きます。教育委員会や首長部

局で同じようなことをやっていると市民は混乱することになるだろうと思います。地域に入つて地域づくりをするというテーマが一本あればそれに向かつてどうゆうことができるのか教育委員会や首長部局関係なしに組織も含めて考えていかなければならない時期なんだろうという気がします。地域に入つて、講座を行つていく中で、地域の人がこんなことをやってみたいという思いや活動が地域の中に広がっていくことが理想だと思います。

新潟市の場合「コミュニティセンター」が各地区にあります。そこに「コミュニティ協議会」があつて、自主的にサークル活動や、講演会など、各地区でいろいろと活動を行っています。そこに公民館が入つていく必要があるのか考えることがあります。事業を整備して一本化した住民サービスが提供できるようにすると思っています。

(山田) 首長部局で取り組んでいる家庭教育や高齢者の居場所づくりに公民館として関わるところもあると思います。住民の皆さんには、地域の課題を自分事と捉えていただき、解決に向けて一緒に取り組んでいけるよう支援できればと考えています。

公民館職員は、異動がどつしてもあるわけで、地域住民のニーズをどれだけつかめるかというむずかしい面を感じます。職員が変わつても思いが変わらないような公民館が作ればと思います。

(広瀬) 皆さんからは公民館と首長部局の事業の連携や整備ができてくることが望ましいこと、住民主体の活動を推進していきたいという思いや願いをお聞きしました。今後も公民館の活性化を目指して活躍されることに期待しています。本日はありがとうございました。

# 実践記録シリーズ

263

こども交流体験事業

「わくわく桜体験隊」

～実りある体験を目指して～

新発田市加治川地区公民館

## 【はじめに】

「わくわく桜体験隊」は、加治川地区を中心とした周辺小学校の、2～6年生で活動しています。

様々な体験学習や創作活動、集団活動を通して、人間関係の形成と生きる力を育むことを目的としています。しばしば「探検隊」と間違われてしまいますが、その目的のとおおり、「体験隊」なんです。

## 【活動の様子】

桜体験隊では、年間を通して様々な活動を行います。令和元年度の春には、最初の活動として地域のウォーキングイベント「れんぎょう・桜お花見ウォーク」に参加し、満開の花々を楽しみながら仲間同士の親交を深めました。

夏になると、地域のほたる保存会の方を講師に招いてのほたる観察会や、新潟県少年自



然の家での一泊二日のサマーキャンプを行います。

キャンプではカヌー体験や野外炊さんを行うのですが、毎年参加している子どもは、年々その技術や団体行動の力を磨いていて、その成長に驚かされます。

秋には地域のアマチュア無線クラブの方を講師としたプログラミング体験教室を行います。

これはプログラミングを施した車の模型を走らせる実験で、子どもたちは初めての体験に不安と興奮の入り混じった表情で臨んでいました。

冬には地域の食生活改善推進委員の方を講師に、料理教室を行いました。包丁など、普段握る事の少ない調理用具に苦戦する場面もありますが、講師の丁寧な指導の下、協力しておいしい昼食を作ることが出来ました。



## 【地域連携】

わくわく桜体験隊の活動の多くは、地域との連携の上に成り立っています。前述した行事での講師をはじめ、スポーツイベントでは地域のスポーツ推進委員と呼ばれる方々の協力をいただいています。

また、地域スポーツ振興会と連携を取ることもあります。前述のウォーキングイベントもその一環です。

## 【今後の課題】

今年度の募集では新規の参加がなく、例年より少ないメンバーでの活動となりました。広報活動への注力は当然の事、参加する子供たちが興味を持てる体験の拡充が、課題となってきます。

体験を通し、外への広い視野を獲得するとともに、内なる自己への理解に繋げていけるような、実りある体験を目指して、今後も活動していきます。





歌が好き

ドレミの会

ドレミの会は、平成26年7月に元中学校教師の関口カズ子先生の発案で発足しました。メンバーは60代から80代の女性たち約24名で、毎月2回歌を楽しんでいます。講師は、地元でピアノ教室をやっている40代の女性です。

レパートリーは唱歌、叙情歌、ロシア民謡、軽ポップス等、リクエストも募りいろんなジャンルを歌っています。最近では、2部合唱に力を取り組み、きれいなハーモニーで数曲歌えるようになりました。毎年10月に開催される水沢公民館の文化祭では、演芸発表会に出場して披露しています。3月には会計報告も兼ねてランチ会を行い、コミュニケーション



を深めます。

公民館は、自宅から歩いて行ける所にあり、レッスン日には雨の日も雪の日も集まって来ます。公民館の職員の方が親切に冷暖房を入れて下さり感謝でいっぱいです。高齢者の私たちがですが、これからもできる限り楽しく続けていきたいと思っております。

十日町市・ドレミの会

代表 関口カズ子  
事務局 井口 敬子

いつまでも元気でいたい！  
「元気サークル」続けています！

元気サークル

市の健康づくり体験教室をきっかけに、参加した男性4名でサークルを立ち上げて8年目を迎えています。

健康づくりの分野において男性限定の自主サークルは例がなく、集団での活動はどちらかと

いうと女性向きの印象です。しかし身体を動かす活動を継続していくには男性も集団の方法が良いと考えていましたので良い機会でした。人数が少ないからとサークルの立ち上げを断念してしまえば今まで通りの「男性はなかなか集まらない」ままと思いついて「まずは存在し続けること。」と半ば強引にスタートしました。現在は15名まで増え嬉しい限りです。「男性限定」にしたことが良かったのだと思います。



阿賀野市・元気サークル  
スポーツプログラマー  
shino(し)の記

燕市社会教育課 公民館事業係  
副参事 酒井 和裕さん



昨年4月から燕市中央公民館に勤務しています。前の仕事は燕市役所内の保険年金課で、重度障がい者医療や国民年金を担当し、制度や法律の中で仕事していました。社会教育はもっと頭を柔らかくしなければと痛感しています。

現在は、成人教養講座や青少年育成関係を担当しています。子ども体験活動事業「風の子くらぶ」では、自然の中での子ども目線の観察力に驚かされることも多いです。子どもたちの主体性を尊重している活動ですので、見守るといえることが重要なのですが、いろいろなことが勉強になります。

趣味のモットーは、本物に触れることです。美術館、博物館はもちろん、演劇やLIVE、若者人気のフェスにも参加します。近くお笑いLIVEも行きます。今年は是非クラシックコンサートにも行きたいなあ。時間とお小遣いは大変ですが、いろいろなところに出発したいと考えています。

(燕市中央公民館 酒井 和裕 記)

刈羽村公民館  
総務 光井 聡史さん



新人の光井さんの紹介ということで、まだ素顔がわからないため、まずはコミュニケーション！ということで地元の居酒屋にいきました。一見大人しそうな印象を受けていましたが、高校時代は柔道部だったということでたくさん食べていました。

そんな中で印象に残っている出来事が、お店に看板犬の芝犬が登場したときのことです。彼はとても興奮し目を輝かして犬を見つめていました。犬の犬好きということでそのあとの会話は上の空。終いには飼っていた愛犬を思い出し涙ぐむ場面もあり少し驚きましたが、とても感性豊かで優しい一面を垣間見ました。

12月から初めての一人暮らしがスタートしたということで毎日自炊を頑張っており、お弁当を手作りで持参をしています。休憩時間の際はどんな弁当を作っているのか注目的になっています。

すこし天然なところもありますが、仕事においては一歩ずつ着実に日々の業務をこなしています。彼の成長が今後楽しみです。

(刈羽村公民館 米山 達哉 記)

素顔拝見

information

令和2年度から  
公民館月報(毎月発行)が公民館だより  
(2ヶ月に1回発行)に変わります。



新規購読募集中

- ・公民館職員
  - ・生涯学習関係者
  - ・公民館利用者
  - ・学校関係者
- など社会教育に携わる全ての方、必見！

新潟県内の生涯学習の動向をはじめ、公民館の最前線のいきいきとした活動の様子がよくわかる、新潟県社会教育実践情報紙の決定版。ぜひご購入ください。

■ 定価 1部160円 年間購読料 960円(税・干込) ■

お申し込み・お問い合わせ **新潟県公民館連合会**  
〒950-2004 新潟県西區平島1301 中野プラザ107号 TEL・FAX(025)266-7711 E-Mail ni-koren@juno.ocn.ne.jp

お元気ですか

「サークル活動で切磋琢磨して」

武田 一郎  
(上越市)



退職間際のこと、これから一日をどう過ごすかと考えていたとき、「近くに習い事を教えてくれるところがあるから行ってみたい」という妻の声に押されて、今まで関心の無かったパンフレットの講座名を眺めていました。

いよいよ申込期限も近づいた頃、無理せず継続できたら、との思いで申し込んだのが陶芸教室です。あれからまもなく6年が過ぎます。3年前、今まで指導いただいた講師の方が退任されることになり、受講生数人と今後どうしようかと迷っていたとき、公民館でのサークル活動を知り、ここで陶芸を続けていこうと意気投合し、今に至っています。

サークル活動のコンセプトは、「想いをありのままに創作し合う」です。現在、会員は30代から70代の15人です。活動は週1回・2時間、年に3回ほど作品を焼成し、皆で苦労したこと、解らないことなどを発表し合っています。創作中に子育てや日常の出来事を話しながら、手を動かしている時が一番楽しい時間です。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方その後お元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

編集後記

いよいよ今年はおリンピックが東京で開催されます。7・8月は日本中が盛り上がる事と思うとワクワクします。各項目において世界の技に魅了されることでしょう。世界の

技というとな新潟県でも2月22日・23日に湯沢町苗場スキー場でアルペンワールドカップが開催されます。「雪上のF1」と言われるアルペン競技、日本人選手の活躍を大いに期待しています。  
(広瀬)

令和2年度 **新潟県** 受付中!  
**交通災害共済**

**年会費 500円**  
ひとり年額500円です。途中加入の場合も同額です。

**見舞金 3万円(実治療7日)~ 最高150万円**  
(死亡)

**共済期間 令和2年 4月1日 ~ 令和3年 3月31日**  
※途中加入の場合は、加入した日の翌日から令和3年3月31日までです。

《お問い合わせは》お住まいの市役所・町村役場の担当窓口へ  
新潟県市町村総合事務組合